

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に法人の理念とかわべちよう敬老園の理念を唱和している。職員は理念をもって実践している。	法人の理念の主旨である「質の良い介護」・「健全経営」・「心と心の結びつき」、ホームの理念「家庭的な環境と地域住民との交流の下で一人ひとりの気持ちを大切にし、そのひとらしい生活を支えていきます」などを毎朝唱和し、管理者はじめ職員は統一したケアに取り組んでいる。入職時には法人の人事課による研修で接遇研修も行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア(ハンドマッサージ、体操、傾聴、外出支援など)に来園して頂いている。昨年は事業所の納涼祭に自治会の方の他、隣組の方にも招待状を出し参加して頂いた。地元の行事(どんど焼き、菊花展)にも参加している。	自治会費を納め地域の一員となっている。ホームの納涼祭で近隣住民に声掛けしたところ、87名の大勢の方に参加いただいたという。地域の「どんとこい祭り」は15時から開催され、前半は子供達の演奏や出し物で、18時からの後半は大人の出し物となり1日賑やかに行われ、利用者も見学に出掛けている。ボランティアの来訪も多く利用者は楽しみにしている。初任者研修の実習生の受け入れなども行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において認知症人への関わりについて話したり、散歩に出かけた時に地域の方々とお話したりしている。サマーチャレンジボランティア、春チャレンジボランティア、実習生の受入を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回奇数月に開催している。二か月間の活動について報告しご意見をいただいたり、地域の情報を伺い行事に参加したりしている。	年6回開かれていた。利用者、家族、自治会長、民生児童委員、第三者委員、市高齢者介護課職員、地域包括支援センター職員、統括施設長、小規模多機能型職員、ホーム職員の参加の下、1階の小規模多機能型居宅介護と合同で行われている。利用者や施設の現状等の報告を行い、消防訓練も見て頂き避難口についても助言をいただき改善の予定であるという。納涼祭の呼び掛け方法についての参考意見をいただき、それに沿ったことにより87名での賑やかなお祭りとなった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者へ出席して頂き、事業所の活動を伝えており、相談しやすい関係を築いている。年4回、市の介護相談員2名来園し利用者の話を聞いてくれる。かわべちよう便りを渡し普段の生活の様子を話している。	運営推進会議には市高齢者介護課職員、地域包括支援センター職員が参加しており状況を把握して頂いている。介護相談員の来訪もあり、日頃からの連絡は密に行っている。グループホーム連絡会も開かれ情報交換を行いケアに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議において「身体拘束廃止に関する指針」を読み合わせたり、西地区の研修に出席し正しい理解に努めている。玄関は施錠されているが家族代表に相談したところ安全を考えると施錠には肯定的だった。	「身体拘束適正化のための指針」、「身体拘束廃止推進マニュアル」の読み合わせを年1回行っている。外部研修にも参加し、報告会を開き、職員間での情報の共有も行っている。運営推進会議でも話題にし、意見も頂き、拘束廃止を踏まえつつ利用者本位の安全について検討を行った。	

グループホームかわべちよう敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の人権研修や上田西地区の虐待防止研修に出席し学びを深めている。コールマット使用時に家族に相談したり、言葉がけ等グレーゾーンの関わりについても気を付け、虐待の防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度、日常生活自立支援事業についてファイルを作りいつでも閲覧できる状態にしている。利用者の中には成年後見制度を利用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定の際は十分な説明を行い質問に応じ必要な書類を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開催し、事業所の活動について報告しご意見を伺う機会を作っている。またご家族が来訪される折に話しやすい雰囲気を意識し、お話をお聴きし職員が共有し運営に活かせるようにしている。	意思表示が困難な方が若干名いるが表情や様子で汲み取るようにしている。後の利用者は言葉で伝えることが出来る。家族の面会時には声掛けし、利用者の様子をお伝えし希望をお聞きしている。納涼祭と忘年会の年2回家族会を開き、状況を報告し、意見も頂いている。亡くなられた利用者の家族も忘年会に参加頂き、思いを話されたという。また、ホーム便り「かわべちよう敬老園」は毎月発行し、法人の上田西地区の通信「ちょっとみてみて」は年4回、法人による「敬老園便り」も年4回発行され、利用者や家族に配布されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設け、会議にて話し合い運営に反映させている。また必要に応じて面談を行い意見、提案を聞く。	月1回スタッフ会議を開き情報の共有を行っている。市で開かれた感染症の研修には看護師が参加し、報告会で職員に伝達されケアに活かしている。処遇に反映される法人の人事評価制度に沿って、目標を立てる8月と振り返りを行う12月に管理者と面談を行っている。年1回ストレスチェックも行われ、高ストレスの場合は産業医に繋げている。また、キャリアパス研修も行いレベルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「人事評価制度、研修キャリアパス」により個人の資質向上できる仕組みがあり、評価される制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職後の採用時研修、勤続年数、役職に応じて受ける職員基本研修、年間計画に沿って地区単位で受講する法定研修を含む研修などを受講する事が出来る。また資格取得に向けてサポートする仕組みがあり活用している。		

グループホームかわべちよう敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム間での交換研修や、上田市内のグループホームが構成されているフレンド会の相互評価研修に行ったり、来て頂きサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談などにより、本人の様子や生活の情報を得て職員間で共有している。入居後は職員の声かけを多くし不安のないように他利用者の方と関係が作れるよう配慮している。一対一の関わりも行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所の見学をして頂き、説明の上質問に丁寧に答え、出来るだけ不安を少なく出来るよう配慮している。面会時に日常の様子を伝え家族の声に耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が入居後にまず必要としていることについて支援していくが、状態が変わればその状態に合わせて必要な支援を検討していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜の皮むき・食器拭き・洗濯干し・洗濯たみ等出来る事は一緒に行っている。感謝の気持ちを忘れずにお礼の言葉をお伝えしている。 ひとり一人に合った出来る事を見つけ行っていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来やすい雰囲気を作ると共に、往診時には家族に同席してもらう等、家族に来園してもらえるよう配慮している。家族会や家族参加行事を開催している。面会時には生活の様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の他にも馴染みの関係の人が訪ねてくることを歓迎している。外出行事の時に利用者が暮らしていた付近を通ったり、自宅付近へ出かけたりしている。	利用者の自宅近くには天然記念物の有名な「櫻」があり、他の利用者も見物に出掛けている。ホーム近くの馴染みとなったハンバーガーショップにコーヒーを飲みに行く方もいる。昔お世話になったという知人の来訪もあり、ゆっくり話されている。馴染みの道の駅にはドライブ、外食などで良く立ち寄っている。	

グループホームかわべちよう敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席など、利用者同士の関係を把握し他の方と関係づくりができるよう調整している。また間に入り話ができる環境を心掛けている。職員が話をしたり、意見を伝えたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、職員や家族同士の関係が急に切れないように配慮しながら、家族会や行事に参加して頂き、家族会では感じた事などを現在利用している家族に話して頂いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり利用者の話をよく聴き、希望、意向の把握に努めている。困難な方は日常を観察するなか表情や行動から意向をくみ取るように努めている。	日頃からの個々の状態を把握しており、仕草などで察知し声掛けし意向をお聞きしている。日記・折り紙・縫物など、昔からの趣味を継続される方もおり、一人ひとり利用者の思いを大切に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に生活歴、家族関係、生活時間、好きなもの嫌いなものを教えて頂いている。利用開始前のケアマネ、サービス事業者などから情報を頂き把握に努めている。出来るだけ大きく生活を変えることないよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や日課表に記入し、出勤時は申し送りをうけ、現状を把握している。職員同士の連携をはかり変化を見逃さないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を踏まえ、課題とケアについて職員、主治医、訪問看護師など関係者の意見を聞き介護計画に反映させている。	日々の申し送り時などに利用者の変化について話題にしている。長期目標は1年、短期目標は6ヶ月を目安に見直している。大きな見直しについてはスタッフ会議で検討している。モニタリングは全員により毎月行っている。入退院や変化が見られた時には随時見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの結果についてや、気づきを記録や連絡ノートに記入している。普段より様子を話し合いながら変更をしている。		

グループホームかわべちよ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	喫茶店によく行っていた方と散歩でコーヒーを飲みに出かけたり。自宅前の県指定のけや木の木を見に利用者皆で出かけたり、出来る範囲でなじみの場所に行ったり、身体機能的に家族と出かける機会の減った方は、希望により外出行事に家族も一緒に出掛けたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけ医を継続したり、元々関わっていたボランティアを継続したりしている。地域の行事に出掛けたり、事業所の行事に招待したりしている。傾聴、体操、ハンドマッサージを利用者は楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望によりかかりつけ医を継続している。普段の様子や変化、薬の事などを家族を通じかかりつけ医に報告相談している。必要や希望に応じ受診時に車までの移動をお手伝いしている。要介護3以上で希望する方は協力医療機関から訪問診療してもらっているが、家族に同席してもらっている。	契約時に協力医があることを説明しつつ、希望をお聞きしている。利用前からの主治医を継続されている方は家族に付き添いをお願いしている。受診時にはホームから口頭あるいはメモにより医療機関に情報提供している。法人のクリニックを主治医とする方で要介護3以上の方はそのクリニックの往診を受けており、往診時には家族に同席していただき、薬の受け取りをお願いしている。クリニック内の訪問看護ステーションから週1回の来訪があり、情報の共有も図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、月4回訪問看護師に健康観察に来てもらっている。来園前に状態をFAXにて報告している。体調変化あった際は、連絡相談することで早目の対応を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院に伺い情報提供すると共に、病状説明に同席させて頂くなどして、今後について家族と一緒に病院関係者と相談、退院後の生活について情報共有し、スムーズに退院できるよう協働した。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化対応終末期ケア対応指針」を家族に説明している。また終末期には家族、主治医、訪問看護師、介護職員同席し、主治医からの病状説明を受け、家族の意向を確認、今後のケアについて方向性を定め、職員間で情報を共有しケアの統一をはかった。	「重度化対応及び終末期ケア対応指針」が重要事項説明書に組み込まれており、利用契約時に説明し同意を頂いている。重度化した場合には家族を含め主治医・看護師・管理者と改めて話し合い家族の希望をお聞きし、それに沿えるよう必要な職員研修も行い、昨年、10月、初めての看取りが行われた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地区研修に於いて毎年1回AEDを用いた救急救命研修開催している。2日間研修開催し職員全員受講して実践力を身につけている。		

グループホームかわべちよう敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回屋、夜間想定にて避難訓練を実施。避難、通報、消火訓練を行っている。地域の方(川辺町2区)の方々に出席して頂くようになって2年目となる。今年度は運営推進会議の委員にも参加して頂き地域の方と協力体制を築いている。	年2回、春と秋に1階の小規模多機能型居宅介護と合同による通報・避難・消火訓練が行われている。昨年は開設以来2回目の消防署員の参加があり、指導を頂いた。地区の消防団経験者や運営推進会議メンバーの参加もあり、多方面から助言を頂いた。備蓄として食料品・介護用品・暖房器具などが用意されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	口調だけでなく表情にも気を付け、不快と感じるような言葉がけをしないよう心掛けています。トイレの声を掛けられた際はその方に聞こえる声量で確認しトイレに誘導している。	利用者とは職員には男性も女性もいるが、接遇研修も年1回及び採用時にも行っている。利用者からは子孫の世代の職員であるが、人生の先輩として尊重している。言葉がけなどは柔らかく心地よさも感じられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように分かり易くお伝えしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の様子を把握し、その方のペースに合わせて居室で休んで頂く機会を設けたり、起きて頂いてお手伝いをして頂いたり、その日ごとに希望に添って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お声掛けをしながら髭剃り、外出時には着て行きたい服を選んで頂いている。理美容は外部より来訪して頂き行っている。好きな服や色など把握し、朝の支度の時やお風呂の着替えを用意する際は配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き、食事作りを出来ることを出来る方に気持ち良く出来るようお手伝いをして頂いている。	硬さ、大きさなど一人ひとりに合わせて提供している。献立は法人の管理栄養士が季節の野菜や行事に配慮し立てている。力量に応じて利用者も下ごしらえ、茶碗ふきなどに参加している。外出時に外食をしたり、帰りにお弁当を買いホームで食べたり、畑で家族が植えたフルーツトマトなどの収穫を楽しみ美味しく頂いているという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや、食べやすい形態にして提供している。1日の水分量や食事量を記録し、少ない際は食べやすい工夫をしたり、水分は好きな飲み物を提供したり、家族に水分ゼリーを購入してもらい提供している。		

グループホームかわべちよう敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人口腔ケアをして頂く様介助行ったり、声かけ、見守りをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ自立している方は声をかけ、促したり、排泄介助の方はパターンを習慣化し、トイレでの排泄をして頂く様支援している。	三分一の方が布パンツで自立しているが、後の方はリハビリパンツとパットを使用している。排泄チェック表によりパターンを把握しており、様子や時間を見ながらさりげなく声掛けし、出来る限りトイレ誘導しトイレでの排泄を大切に支援している。夜間のみポータブルトイレを使用する方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は水分を多く取って頂く様、お茶を多く取って頂いたりしている。排便サイクルを考え訪問看護に相談しながら下剤を使用する方もある。落ち着かない様子の時は声を掛けトイレ誘導している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望やタイミングに合わせて入浴にお誘いしている。希望に添わない時は時間を変えたり、次の日に入ってもらっている。入浴は会話をしながら気持ち良く入ってもらっている。	見守りで入浴されている方は若干名で介助を必要とされる方が多くなっている。週2回の入浴を基本としているが希望により3回の方もいる。一般浴槽のため困難な場合には、1階の小規模多機能型居宅介護に機械浴があり対応出来る。入浴を拒む場合には、時間や日にちを変え声掛けし対応している。入浴剤などは皮膚の刺激を考慮し使わず、入浴後個々に用意されている保湿クリームを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に応じてお部屋で休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書をファイルし、薬の変更追加があった際は目的、副作用などを確認している。 誤薬が無いよう薬袋に色分けしたラインを入れ日付、名前を読み上げ声掛けて飲んでもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の方には食事作りや食器洗い、食器拭き、洗濯物をたたみ等を手伝って頂き、お礼を伝えている。男性の方には今までの習慣になっている新聞を見たり、散歩をして頂いている。楽しかった思い出話を聞かせてもらったり皆さんが笑えるような冗談を言ったりしながら会話を増やしている。		

グループホームかわべちよう敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期は近くを散歩したり、外出行事として年5回程度、全員で食事やドライブに出かけている。外出行事はボランティアの方に協力して頂いたり、家族に参加して頂いている。外食では普段は小食の方でも沢山召し上がります。	季節に合わせ、散歩やテラスなどで外気に触れるようにしている。年間の外出計画も作成されており、花見・紅葉狩り・バラ園見学・櫛見物・地区のお祭りへの出席など外出の機会を設けている。道の駅はお気に入りの場所となっており、食事もしてくることもある。回転寿司にも出掛け楽しませている。ホームに訪するボランティアや家族にも付き添って頂くこともあり、家族との外出も楽しませている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はして頂いていないが、希望がある時には購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時には家族に電話しお話ししてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光、色、広さ、温度、湿度などに配慮し、清潔で心地よい空間を心掛けている。季節の飾りや花を飾っている。	リビングには食事テーブルとソファも用意されており広々している。個々にお気に入りの場所が決まっているようでゆっくりテレビを見ている。畳の小上がりもあり、自由に過ごせる工夫がされている。また、温度や明るさも含め快適に過ごせるように配慮している。お風呂は一般浴槽ではあるが三方面から介助出来るようになっており、利用者と職員が使いやすくなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には食事の席の他に、テレビの近くソファを置いている。畳スペースもあり思い思いの場所でくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人の作品や、ご家族との写真など飾らせて頂いたり、仏壇や机を置き家での環境に近づける様にしている。テーブルや電気スタンドを置き、読み書きや針仕事がいずれでも出来る環境にしている方もある。	居室にはクローゼット・ベット・洗面台が設置されており、利用者も個々に馴染みの家具や趣味の物を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。また、担当職員から送られた写真入りの誕生カードも大切に飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を分かり易く表示したり、お部屋が分かるように入口に大きく名前を書いたりしている。場所がわからなくなってしまう方にわかるよう看板を設置したりしている。		